

<p>第6回日本ジャンボリー</p> <p>期 間 昭和49年8月1日(木)～ 8月6日(火) 5泊6日</p> <p>ところ 北海道千歳市千歳原</p> <p>テーマ 大自然</p> <p>参加者 25,000名</p>	 <p>スカウト 浜松</p>	<p>第14回世界ジャンボリー</p> <p>期 間 1975年(昭和50年)7月29日 8月7日</p> <p>ところ ノルウェー・オスロの北約 200kmの湖のほとり</p> <p>参加者 15,000名の予定</p>
---	--	---

次代を背負う青少年のため 奉仕の誓いも新たに

昭和48年度浜松地区総会終る

昭和48年4月27日午後6時より、浜松市成子町法林寺の新装成れる客殿に於て定例の浜松地区の昭和48年総会を開催し次代を背負って立ってもらうべき青少年のため大人たちが真の奉仕をしようではないかという、誓いもこめて真剣な討議が行われた。

最初に今回立派に新築なされた客殿大広間を浜松地区のために御提供下さった吉沢協議会副会長より挨拶があり、内田地区委員長長の挨拶があって報告及び審議に入った。

昭和47年度事業報告並びに決算報告について48年度事業計画及び予算案が示され満場一致で承認を得て本年度の運営方針が決定をみたのである。

更にスカウト浜松の報告及び計画の発表があって別項の如く役員改選が行われここに改めて本年度の体制が確立した。

各関係者より連絡事項の伝達があって市川重雄日連理事より日連関係の報告とCSとSS隊を拡大すべき私案も示された。

最後に内田県コミの特別講演が行われた。浜松で創立当時1号バラックで会合を重ね、当時県連で62隊のときに発足して以来今や県で1番目の地区となり、県何れの地区よりも充実していることから始まって、日連に対する私見や、3月25日より山中湖野営場で行われた第19回国際トレーニングザチームコースの参加体験談があった。

「参加して始めてわかったことは今、日連でやっていることは3～40年前に入ってきたものそのものに頼りすぎており、世界の大きな動きに対しては、大きなへだたりのあることを感じさせる。



B-P祭に於て、あいさつする内田地区委員長

世界連盟 104ヶ国のうち登録94国、第3次は後進国が主となっているなかで、日本は第1次に入っている。

しかし日本は手段のみに、無中になり過ぎて人間形成を忘れていていると思う。

団委員長を始め全員がスカウト活動をどれだけ理解しているだろうか。コミュニケーションの難かしさを痛感する。

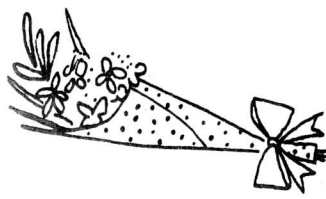
われわれにとってお客は子供である。大人は子供に出来るだけのサービスをしなければならない。

今や少年のために何が必要であろうか日連の規約はB-Pが作ったものでない反省と改革が必要である。

進歩、技能の問題についても、目安を与えて隊長が引っぱって行く為のもの。

即ち努力する過程が大切である。

日連、県連にも役員を送りこんでいる浜松地区は更に各団の融合をはかり立派な地区に成長させられんことをのぞむ」以上の要旨を簡切れのよい口調で、この道に奉仕する人たちへのよいサッゼーションを与えてくれたことは意義あるものであった。



昭和47年度事業報告書

事業項目	期日	摘要
地区総会	4月18日	八幡宮 楠会館
県連植樹祭	4月23日	家山 16団他
浜松まつり駐車場奉仕	5月3日～5日	中田島海岸
県連総会	5月7日	静鉄健保会館
日連総会	5月20日～21日	長野県
地区デンマザー研修会	7月2日	市青少年の家 116名参加
地区リーダー野営	7月8日～9日	市青少年の家 25名参加
米国派遣員出発	7月26日	内田嘉一氏他 7名
地区合同野営	8月10日～13日	渋川川宇連 520名参加
SS洋上訓練	8月22日～24日	佐鳴湖畔 25名参加
カブ講習会スライド勉強会	9月7日	法林寺
看護学院生キャンプ指導	9月9日	芝方野外活動センター
地区団委員講習会	9月16日～17日	奥山荘青年研修センター 26名参加
SS移動野営	10月21日	細江町
地区大会	10月22日	気賀小学校
スカウト像除幕式	11月3日	静岡城内小学校
自衛隊20周年記念パレード	11月5日	自衛隊南基地 450名参加
地区リーダー研修会	11月26日	市内史跡めぐり 26名参加
地区シニアパーティー	12月24日	遠鉄健保会館
日の出還拝式	48年1月1日	中田島砂丘
B.P.祭	2月18日	浜松市立西部中学校
班長訓練野営	3月22日～25日	渋川 川宇連
B.S.トレーニングチーム講習	2月10日～11日	静岡市青少年センター

○海外派遣

- ・結成50周年記念アメリカ (7.26～8.10)
内田嘉一 宮沢広士 井ノ口泰三 牧野績
齋木誠二 吉沢正道 杉山正禎 三輪悦爾
- ・韓国 (8.8～8.20)
柳本 (10) 高部 (20)
- ・エセックス (7.25～8.20)
坂東慶一 (北1)
- ・オーストラリア シニア大会 (12.17～1.9)
野島 博 (4) 竹田善次郎 (12)
赤堀真吾 (18)

○研修所

- ・C・S課程……井ノ口智子 (1) 原田美智子 (20)
西野伸子 (可1) 坪井愛三 (7)
間宮政子 (1) 滝本 守 (20)
- ・B・S課程……山下二郎 (10) 山下三郎 (10)
堀内三男 (15) 鈴木雅美 (10)
板倉昭二 (7) 高倉清雄 (7)
村松国雄 (15) 庄司春雄 (19)

○県トレーニング研修会履修者

- ・B・Sコース…三輪悦爾 平野武 外山吉保
井ノ口泰三
- ・C・Sコース…宮沢広士 柴田薫 后藤守利

○会議

- 県理事会 毎月第4木曜日
- 地区コミ会議 毎月第2土曜日
- 事務長会議 毎月第3土曜日
- 各種運営委員会

○表彰関係

県連有功章

- 大橋俊蔵 (7) 鈴木 実 (4) 小野田将司 (10)
- 神谷隆久 (11) 市橋章司 (11) 中嶋圭介 (12)
- 長尾静夫 (14) 山中将司 (15) 原口芳彦 (15)
- 平野 武 (15) 新井信一 (16) 杉山友男 (北1)

日連有功章

- たか章 内田嘉一
- かつこう章 三輪悦爾

○結 成 3件

- 浜松 10団 C・S隊 (昭和47年5月14日)
- 浜松 21団 C・S隊 (昭和48年1月7日)
- 浜松 20団 S・S隊 (昭和48年3月18日)

○審 査

- 浜松 21団 C・S隊 (昭和47年12月17日)
- 浜松 20団 S・S隊 (昭和48年3月10日)

○説明会及指導

- ・浜松21団C・S説明会 (11.9)
- ・市パイ大指導 (5月～8月) 4回
(中央教室 (7.7～9) 朝霧含む)
- ・神久呂青年学級 (7.29～30) 上阿多古
- ・看護学院生キャンプ指導 (9.9～10) 芝形
- ・市キャンプ講義 (6.6～7) 体育館
- ・市キャンプ講習会 (6.10～11) 渋川 川宇連
- ・引佐インリーダー指導 (3.24) 引佐研修所

○講習会・研修会

- ・団委員講習会 (9.16～17) 奥山
- ・B・S160期講習会 (12.1～3) 市青少年の家
- ・C・S高校生対象講習会 (2.22～23) 三ヶ日青年の家
- ・C・S72期講習会 (3.17～18) 新居水産会館
- ・リーダー研修野営 (7.8～9) 市青少年の家
- ・D・M研修会 (7.2) 市青少年の家
- ・班長特別訓練野営 (3.22～25) 渋川 川宇連野営場

「スカウト浜松」昭和47年度決算報告書

47年4月1日～48年3月31日

項目	収入ノ部			支出ノ部			
	47年度 予 算	47年度 決算額	48年度 予 算	項目	47年度 予 算	47年度 決算額	48年度 予 算
誌 代	150,000	186,500	※227,500	印刷費	153,000	338,000	※324,000
広告料	35,000	74,900	62,000	通信費	15,000	6,475	10,000
未収金	36,500		*7,500	事務費	5,000	2,700	5,000
地区財政補助		57,000	70,000	未払金	86,000	0	
雑収入	282	2,372	1,500	予備金			40,315
前年度繰越金	37,218	37,218	10,815	次年度繰越金		10,815	
	259,000	357,990	379,315		259,000	357,990	379,315
※130×1,750		※4月17日入金				※30円×2,700×4	

昭和47年度収支決算報告書

(収入の部)

(支出の部)

科目	予算額	収入額	過不足額	説明
繰越金	314,772	314,772	0	前年度繰越金
立替金収入	18,000	18,000	0	浜松11団日連・県連登録料立替金
地区負担金	240,000	240,000	0	浜松1 12 浜松12 20 浜松20 12 可美1 8 4 12 14 8 21 4 三ヶ日1 8 6 4 15 20 浜北1 16 細江1 12 7 12 16 16 2 8 引佐2 4 10 16 18 12 3 8 計60コ隊分 11 16 19 8 4 4 @4,000 単位千円
委託金	35,000	65,000	30,000	浜松市教育委員会 指導者養成事業委託金2回分
大会参加費	275,000	236,200	△38,800	47年度浜松地区大会参加費 団負担分@2,000×21コ団=42,000 個人×@ 150×1,246人=186,900 ガールスカウト分 -7,300
合同野営参加費	0	610,600	610,600	47年度地区合同野営参加費 @1,230×462人=568,260 @ 730×58人=42,340(バス未利用者)
研修参加費	265,000	271,200	6,200	デンマザー研修会(予算50人×@200) @200×161人=32,200 リーダー実修野営(予算30人×@500) @500×26人=13,000 団委員研修会(予算40人×@1,500) 出席者分@1,800×23人=41,400 欠席者分@ 200×13人=2,600 班長訓練野営(予算110人×@1,500) @2,000×91人=182,000 デンチーフ研修会(予算60人×@250) 48年4月に延期(会場の都合により)
ラリー参加費	30,000	0	△30,000	47年度は実施せず
寄附金	150,000	585,000	435,000	浜松まつり本部 200,000 浜松八幡宮 2,000 浜松ライオンズC 200,000 B Sアマ無線C3,000 浜松ロータリーC 130,000 浜松南ロータリーC 50,000
雑収入	10,000	88,225	78,225	忘年会会費45,000 地区大会祝儀6,000 浜松まつり備品使用料20,000 その他17,225
受取利息	5,000	7,759	2,759	静岡銀行普通預金口座利息
過年度収入	12,000	12,000	0	浜松6団 45、46年度地区負担金
収入合計	1,354,772	2,448,756	1,093,984	

科目	予算額	支出額	不用(足)額	説明
会議費	65,000	31,160	33,840	地区総会17,000円 コミショナー会議ほか14,160円
印刷費	45,000	56,500	△11,500	協議会名簿33,600円 封筒・経歴表ほか22,900円
事務費	18,000	39,560	△21,560	印刷用紙及び謄写原紙・インク等事務用品代
通信費	45,000	65,590	△20,590	切手・ハガキ・電話代
登録費	4,500	5,300	△800	浜松17RS分
慶弔費	8,000	28,320	△20,320	祝事分19,080円 弔慰分9,240円
分担金	2,000	2,000	0	街をすまよくする会・社会福祉協議会会費
備品費	70,000	279,100	△209,100	B Sアマチーフ無線クラブ用トランシーバー2組131,508円 輪転機・トーションアクセス132,700円 大釜4 附風台2 ヤカン2個 6,300円 S S用フオークダンスレコード一式8,600円
旅費	75,000	17,570	57,430	コミショナー会議等出席旅費 9回分
研修費	465,000	396,047	68,953	隊長研修野営13,729円 指導者研・実修所参加費半額補助(13名)26,000円 班長訓練野営236,503円 デンマザー研修会38,130円 隊長研修会経費24,650円 (足跡めぐりバス代外・講師謝礼) 団委員研修会43,535円 県連トレーニングチーム員研修会10,500円 その他3,000円
行事費	510,000	1,039,753	△529,753	地区大会経費348,220円 B-P祭経費3,906円 ソフトボール大会2,530円 日の出遠征式7,700円 県大会参加バス代等44,300円 S S関係ラリー・パーティ補助19,245円 地区合同野営経費613,852円
雑費	25,000	60,130	△35,130	忘年会経費38,570円 地区大型メーカー補修代7,500円 年末謝礼5,000円 その他9,060円
仮払金	0	57,000	△57,000	スカウト浜松援助(立替)金
立替金	0	80,500	△80,500	Tシャツ地区立替金76,500円(291枚分) 県連登録料立替分4,000円(可美1団)
予備費	22,272	0	22,272	
支出合計	1,354,772	2,158,530	△803,758	

ただし繰越別途積立金583,857円(定期預金として地区委員長保管中)

48年度へ繰越 収入支出差引残290,226円(但しライオンズ寄附金200,000円は別
別途積立金383,857円 途定預期を含む)

参考 来年度収入	○地区負担金	○D C研修会参加費
計 156,000円	浜松18 15,000	細江1 5,000 浜松15 6,000
仮受金	◇ 20 25,000	可美1 6,000 ◇ 16 6,000
計 11,625円	◇ 6 5,000	浜松1 7,000 ◇ 21 6,000
	◇ 12 25,000	◇ 10 4,000 ◇ 19 4,000
	浜北4 5,000	◇ 12 6,000 ◇ 20 8,000
	浜松4 15,000	
	浜北3 8,000	

参考 来年度支出	デンチーフ研修会経費74,700円
計 74,870円	通信費 170円

上記のとおり会計報告いたします。
昭和48年4月17日
浜松地区会計 後藤守利

昭和48年度浜松地区協議会役員名

協議会長	内田六郎(4)	指導者養成委員長	大橋俊蔵(7)
副 "	吉沢純道(1)	副 "	松下英夫(14) 新谷 豊(16) 松井英昭(北2)
地区委員長	内田時世(4)	進歩委員長	中嶋圭介(12)
副 "	宮沢広士(12)	副 "	李屋禎一(可美) 鈴木 護(19) 松井 寛(18)
	市川重雄(16)		近藤勝彦(6)
財政委員長	金森武夫(12)	野営行事委員長	竹村徳一(20)
副 "	伊熊正治(18)	副 "	鈴木宗太郎(10) 牧野直雄(21) 川瀬愛治郎(15)
	星野長次(北4)		斉木誠二(1)
組織拡張委員長	杉山友男(北1)	健康安全委員長	長尾静夫(14)
副 "	山中将司(15)	副 "	安岡 魁(4) 有木高雄(三ヶ日) 永田千一(細江)
	吉沢正道(1) 野中豊治(19)		横田清雄(北1)
	袴田栄治(15) 高須岩夫(引2) 前原敬一(三ヶ日)		
	山下総太郎(北3)		

昭和48年度 浜松地区収支予算

日本ボーイスカウト浜松地区委員会

収入の部			支出の部		
科目	予算額	説明	科目	予算額	説明
繰越金	290,226円	昭和47年度繰越金 但し200,000円の定期預金	会議費	40,000円	地区総会・各種運営委員会 コミッショナー会議等
立替金収入	80,500	Tシャツ売捌代金291枚 県連登録料可美1団4,000円	印刷費	70,000	通簿・案内状・封筒等印刷
地区負担金	300,000	@5,000円×60個隊	事務費	40,000	印刷紙・感光紙・その他文具等 事務用品
委託金	65,000	浜松市教育委員会 指導者養成事業委託金2回分	通信費	80,000	ハガキ・切手・電話代等
地区大会参加費	303,000	個人分@200×1,200人=240,000円 団負担@3,000×21=63,000円	登録費	6,000	浜松17団R S日・県連分
研修参加費	421,000	班長訓練野営参加費 @2,000×90人=180,000円 デンチーフ研修会参加費 @1,000×67人=67,000円 デンマザー研修会参加費 @200×120人=24,000円 隊長実修野営参加費 @1,000×30人=30,000円 団委員研修会参加費 @3,000×40人=120,000円	慶弔費	10,000	
寄附金	300,000	浜松まつり本部 浜松ライオンズクラブ 浜松ロータリー4クラブ	分担金	2,000	町を住みよくなる会)会費 社会福祉協議会
雑収入	10,000		備品費	330,000	ライオンズクラブ寄贈 地区用雑庫建設費
受取利息	5,000		旅費	70,000	県コミ会議・運営委員会等出張旅費
			研修費	590,000	WB研・実修所入所者分参加費半額補助 45,000円 (研)4,000×1/2×15人=30,000円 (実)6,000×1/2×5人=15,000円 班長訓練野営経費 240,000円 デンチーフ研修会経費 75,000円 デンマザー研修会経費 45,000円 班長実修野営経費 35,000円 団委員研修会経費 120,000円 隊長研修会経費 30,000円
			行事費	435,000	浜松地区20周年地区大会 経費 400,000円 浜松まつり経理 5,000円 新年日の出遣拝式 10,000円 県大会分担経費 20,000円
			スカウト浜松援助金	70,000	
			予備費	30,000	
			雑費	1,726	
収入合計	1,774,726		支出合計	1,774,726	

※ 各予算科目間の流用は必要に応じ認めることとする。
 ※ 別途積立金は必要に応じ収支予算に計上のうえ使用する
 ことができるものとする。

上記のとおり提案します。
 昭和48年4月27日

浜松地区委員会 財政委員長 金森 武夫

昭和四十八年度事業計画

種別	地区(全)	C 関係	B 関係	S 関係	県・日 関係	講習会
4	地区総会(法林寺) 緑の羽根募金	DC研修会 DM		シニアリーダー研修会	県樹植地視察 シニアリーダー研修会	
5	浜松まつり駐車場奉仕 勤労行事週間	DM研修会	WB研修所 L.研修会	L.研修会	県連総会 日連総会	C. 三 島
6	隊長訓練野営(全リーダー)	全(L.訓練野営)	全(L.訓練野営)	全(L.研修野営)	WBボーイ研修所一朝霧 WBカブ・ボーイ実修所一朝霧	C. 磐 田 B. 富士宮
7	県大会(県西部ブロック)	リーダー研修会		L.研修会 アドベンチャーキャンプ	アメリカジャンボリー スエーデンナショナルキャンプ	
8	合同野営一朝霧		合同野営一朝霧	洋上訓練 無線講習会	WB研修所ボーイ一朝霧 県下シニアアドベンチャーキャンプ	B. 北 遠
9	団委員講習会	L.研修会	L.研修会	L.研修会	WB研修所カブ一朝霧	C. 富 士
10	20周年記念地区大会-市営 グラウンド			地区大会協力奉仕	WBカブ実修所一朝霧 ボーイ	B. 島 田
11		L.研修会	L.研修会	L.研修会	WBカブ 地方 ボーイ	C. 掛 川
12	年末助け合い(団毎)			SS懇親パーティー 日の出登山	第5回フイリピンジャンボリー	B. 磐 田
1	日の出遣拝式 研修旅行	L.研修会	L.研修会	無線通信 L.研修会	市キャンプ講習会(市協主催)	C. 清 水
2	B-P祭 スキー訓練	全 L.研修会	全 L.研修会 スキー訓練	全 L.研修会 スキー訓練		B. 下 田
3	班長訓練野営		班長訓練野営	L.研修会		C. 浜 松
	「スカウト浜松」発行 20周年記念誌発行		ソフトボール大会			

ブロックリーダー研修会 毎月1回
全 体 L 研修 6月・2月

各種運営委員会 随時
コミ関係会議 随時

昭和47年度B—P祭 西部中学にて挙行



開会式

年々盛大になった浜松地区のB—P祭は本年もボーイスカウト、ガールスカウト合同で実施することとなり、昭和48年2月18日浜松市立西部中学校体育館で盛大に挙行了した。

この日雨天にかかわらず参加した数はリーダー75名ボーイ 325名カブ 433名父兄78名ガールリーダー16名ガールスカウト85名ブラウニー73名父兄13名で合計1,100名以上であった。

式は次の次第で10時から開始された。

第1部(式典)

1. 開会のことば
2. 国旗掲揚
3. 国歌斉唱
4. 世界の総長合唱
5. 主催者挨拶 内田地区委員長より
別掲の通り。

6. 来賓の祝辞
7. 閉会のことば

第2部(講話)

大橋光男県副コミッショナーから、116年前の2月22日B—Pが誕生して以来B—Pの歩んできた道から我々への教訓となる話があった。

第3部(演技)

1. 鼓隊 浜松12団CSによる統制のとれ、訓練された演技によって開幕。
2. ソング GS
3. 劇(アリババと40人の盗賊)
浜松16団BS
4. ソング 南部ブロック(10・16・20・可美1)CS
5. バトンガール
ブラウニー(16・52)
6. 劇(笠をかぶったお地蔵さん)
細江1団CSによる詩情味ある演出と熟演に敬服
7. ソング 西部ブロック(4・7・11・12・19)BS
8. 歌唱指導 外山副コミに依り
9. 劇(ニイハオ)
日中友好ムードを反映させて引佐第2団BS隊

10. ソング 中央ブロック(1・15・21)CS
11. ドリル(チームワーク)
浜松第4団CSのロープ渡りまでさまざまな演出にびっくり。
12. ソング 浜北(1・2・3・4)CS・BS
13. 劇(最後のメッセージ)
浜松16団CS・BS

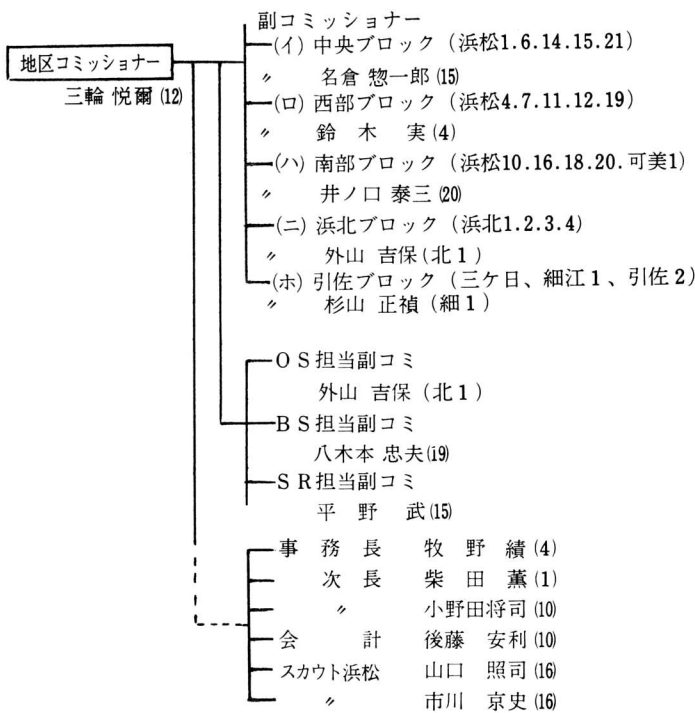
閉会のことば

以上でB—Pを偲んでのたのしい1日の集いが無事終了した。



講演する大橋県副コミ

地区コミッショナー編成表



委員会

- SR 渡辺年啓(1) 牧野 ▲(4) 高倉清雄(7) 小野田将司(10) 古橋照久(11) 斎藤房太郎(14) 新井信一(16) 坂東 毅(北1) 内山(細1) 須賀一司(三ヶ日) 井ノ口泰三(20)
- BS 鈴木 実(4) 中島繁光(6) 小笠原勇(14) 名倉惣一郎(15) 福世正志(18) 玉木功一(21) 和田(北2) 波多桂二(北4) 神谷泰二(引2)
- CS 柴田 薫(1) 後藤守利(10) 宮沢広士(12) 石津 宏(16) 河合忍(20) 金原(21) 杉山正禎(細) 西野忠彦(可1) 野中不二夫(北3)

無線クラブ
(井ノ口泰三
(外山吉保、河合忍、平野正昭、後藤守利))



12回C Sの鼓隊

昭和47年度のB-P祭にあたり一言御挨拶申し上げます。
今日は我々ボーイスカウトの父、世界の総長であるベーデン・ポウエルの誕生を記念しての浜松地区の行事でございます。

B-P祭にあたって

浜松地区委員長 内田 時世

御来賓の皆様には御多用中に拘らずわざわざ御出席下さいまして誠に有難うございました。
ベーデン・ポウエル卿がなぜスカウト運動を始めたのか、此の機会に今一度考えてみようではありませんか。
B-P卿は、スカウト・リーダーに次の激励の言葉をのこしています。
「恒久的平和には、欠くことの出来ない一つの事がある。それは人と人との間の精神の全面的な切り替えである。その切り替えとは、相互をより近密にすることと国家的偏見を乗り越えることであり、友好的同情の中に相手の観点から、ものを見ることが出来る能力が、それである」

と。
この相互理解の仕事に対してスカウト運動は、その一端に貢献している事は衆知の事実でございます。
又B-P卿はソクラテスの言葉を引用して次の様にも言っています。
「自分の子供だけでなく、他人の子供にまでも、正しい教育をしようと心を砕く人にまさる善い目的に向って進む人は此の世にいない」と。
リーダー始め、団のお世話役の人、地区役員の方々、此のスカウト運動はやり甲斐のある奉仕なのだという自覚と自信を更にお持ちいただきたいと願ってやみません。

「随筆」 国旗と国家



内田 時世

吾々スカウターは一人一人国旗を掲揚し、そして「君が代」の国歌を唱おう。

私は次の随筆を読んだ。「昨年ミュンヘンで開催されたオリンピック競技に於ても、優勝選手の栄誉をたたえて国旗の掲揚とともに奏せらるる国歌、メロディーそのものは音楽のことは何にもわからぬ私にもそれぞれ立派なものと感じますが其の歌詞に至っては殆んどが戦争を意味する血なまぐさき文句でないものは少なく、例えばアメリカの

見よや 朝のれい明に たそがれゆくみ空に うかぶ我等が旗 星条旗よ 弾丸降るいくさの庭に 頭上高く翻る 堂堂たる星条旗よ 嗚呼我等が旗のあるところ 自由と勇氣ともにあり。

ソビエトは、自由な国 ゆるがぬ国 永遠に生きよ 我ロシア 諸人こぞりて 立てし国 栄光あれソビエト同盟 栄光の民自由の祖国 結ばれし そのよしみ 旗掲げてみちびけよや 勝利の為進めよや きたえられしわがつわもの 攻めくる敵うち破り 断呼と 護る尊きわが祖国に 栄光あれ

イギリスは、神のみ救い我等が女王にあれ 女王に勝利を支えたまえ そして幸と栄光とを とこしえに我等を支配したまえ フランスの如きはもっと烈しく

行け祖国の国民よ 時こそ到れり 聞かずや 野に山に敵の呼ぶを 悪魔の如く 敵は血に飢えたり 立て国民よ いさ矛を取り 進め仇なす敵を葬らむ

メキシコでは 平和を愛する友 克ちとれや勝利を 攻めくる敵にあたり 示せよその力を

キューバは 進めよわがバセメセズ 敵のあなどり受け我等は生き得べきや 敵の叫びを聞かずや 今こそ進め

カナダは おおカナダ 祖先の土地 戦地にも花は咲けり 剣を振り立てしてがらよ 歴史を色どるは輝くりきや

イタリアは 友よ立てよ 伊太利目覚めぬ シビオのかぶとを 頭にいただき 勝利はいずこそ 勝利は神に 常にローマの手の中に

スイスでも 祖先の山 自由の歌唱えや 国の為に スイスの為に 血を命を捧げなむ

そして中国では 起て 奴隷となるな 血と肉もてきずかむよき国 われらが危機迫りぬ 今こそ戦う時は来ぬ

之に反して日本の「君が代」の何処に軍国主義の匂いがありましょうか。日本国皇室を中心とする一大家族の国家、文字通り国こぞり一つの家族とするこの家族国家の栄光を、さざれいしの巖となるまでの長年月の間のいや栄遠に栄えしめてその岩に美しい緑の苔のふかぶかとむすまで永久に栄えあれと祈るだけの歌詞も至って簡潔なものの、又そのメロディーも我々古来の雅楽のしらべを基調とした。莊重優雅な曲譜。昇る朝日をそのままに白地に染め出した、是以上単純に立派に優勢には表わし得ない見事なデザインの日丸の国旗とともに世界中何れのところに於ても事ある毎に堂々と唱って感激を新たにしてよいと思います。敗戦後アメリカの支配下に国旗の掲揚も国歌の斉唱も禁ぜられてから、一般国民は何となく国旗と君が代に関心を持たなくなって居ますが、敗戦後に最初に国旗日丸の掲揚と「君が代」の斉唱を許された。日本のボーイスカウトは日本中に素直に、文化遺産として受けつぐべきである。国旗を掲げて「君が代」を胸を張って唱おうではありませんか。

第四団々委員長 内田 時世

スキー 雑感

スキーヤー蛭ヶ野高原スキー場へ集る



準備体操するシニア達

地区コミッショナー 三輪 悦爾

連休の続いた14・15両日は、善男・善女・幼児・壮年まで、何と一万人を越す盛況であった。

こんなことを書くと、鴨江観音を想像するが、実際ひるがのスキー場は大入盛況、足の踏む場もないぐらい集ったのである。

白い山はだのスロープに、リフトは長く尾を引いている。そこら一帯、アリがむれ遊んでいる風景であった。



ブラウニーガール、カブ達後姿の方がよろしい

まず、地区シニアスキー訓練の39名を始め20団、カブ、ボーイ団委員、父兄中央ブロックのボーイ、7団、カブ、ボーイ、シニア、ブラウニー、ガール、名古屋、関の多数のスカウト達、月の輪組は思い思いに滑っている。滑走、斜っこ、停止の練習、それぞれが楽しんでいる。

止ることは、ころぶことなり、何度となく、前へ横へうしろへころんだことか。必要以上の力を手足にのけるために、ガクガクしている有様であった。年をとりたくないものである。

七才と云った少年は、長ぐつにスキーをはめ、スイスイ滑っている。その後を母親がゆるやかに、吾が子を見守り乍ら滑っている光景は、まことにのどかであり、ほほえましく感ぜられた。

また牛乳箱の大きいやつに、スキー板を張りつけ即成のそりを滑べらしている

子供は、地元の子どもか。父親が長ぐつをはき、あちこち飛び廻っている。高価なものを購入しなくても結構子供は、無心に滑っている。教育ママサンに見せたい風景であった。

いつ果てるともない高原スキー場、ナイタースキーも楽しんでやっておことだろう。

頂上から、ものすごい勢いで滑ってくるスキーヤー、ぶつかってはたまったものでない。とうとうよけたひょうしにころんでしまったわけである。実にうまい。右に左に気持ちよく滑走している後姿を追い乍ら、ころんだまま、しばし、ぼうぜんとした次第であった。

白鳥スキー場、平家平スキー場へ繰込んだものは、全部このひるがのスキー場へ場変したものであった。雪不足の為である。自家用車をわきに止め、チェンをはめている何十組かのスキーヤー、

自家用車の屋根にスキーをしばりつけ意気揚々と引揚げてゆく組、大日岳スキー場への登り口では、チェンを巻く組、はずす組、至るところでこんな風景が見られる。田んぼの中に滑り落ちた車、中の人間はどうなっただろうかと心配し乍らバスは宿へと向う。

シニアスキー訓練一行、リーダー5名スカウト34名、無事故にて帰着出来たことにまずよろこび合いたい。それもシニア諸君の一人一人が自覚して行動した賜である。

これからも、シニアスカウト達の歩む道は、けっして楽ではないが、後輩スカウトが又歩む道でもある。

賢実な道をつくろう。終始行動を共にし指導して頂いた。平野武、斎藤房太郎、小野田将司、古橋照久各隊長を始め、遠鉄バスセンターに心から感謝を申し上げます。 1月16日記

信頼と愛情

内田 嘉一

昨年のある日、〇〇から一人の少年が浜松へ家出をして来た。

前夜、両親にも家族にも無断で家を出て朝早く浜松へ着いた。

明るくなるまで駅で休んで居た。やがて街が活動を始めるのを待って、街へ向って歩き出した。有楽街へ入って行くと、丁度〇〇〇商店の店の前に「従業員募集の貼札があるのを見たので「私を使って下さい」と入って行った。

そこで専務の〇〇〇さんがその少年に引見していろいろと事情を聞いた。〇〇府〇〇市〇〇町、〇〇〇〇(15)で〇〇工業高等学校の一年生である。家庭は〇〇タクシーに勤務する。家庭では無口な父(43才)比較的口喧しい母(36才)と小学校三年生の弟とのまあ普通の中流の家庭である。

そこで〇〇〇専務の質問に答えたものを要約すると

○少年は二輪車(オートバイ)の運転や整備に強い関心とあこがれを持って居る。

○かつて子供の頃浜松に親戚があつて一度遊びに来た事があり、その大量生産地である浜松を目標にして出掛けて来た。

○彼の学校に於けるクラスの友人の中によくない連中が居て、喫煙を奨めたり喫茶店へ集る事を誘ったりして、これを断る事の出来ない素直な性質なのでこのままではやがて悪の道に入ってしまう怖れがあるので、この仲間から離れる為に、一年間を休学をしても社会体験をしたい。

と言うのが〇〇〇専務に話した事情である。〇〇〇さんは親切にも、市内外の業者数ヶ所に聞き合わせてくれたが、おいそれと引き受けてくれる事業所は仲々になかった。

更に話し合っている間に、彼がボーイ

スカウトのシニア隊に所属している事、世界ジャンボリーにも参加している事がわかって来た。丁度その時〇〇〇〇商会を訪問して来たガールスカウトの〇〇リーダーがその話を聞いて、そのまま私に何とかしてやってくれという電話となった。

早速私はかけつけた。二階の静かな部屋で彼と、専務と、私の四人でいろいろと話し合った。

彼の所属は〇〇連盟、〇〇二団のシニア班であつて、世界ジャンボリーでは安土野営区の〇〇隊に所属をして参加していた。

時には明るく和やかに、時には厳しい言葉で話し合いを続けるうちに追々と反省する態度が現れて来た。

○両親に無断で出て来た事は絶対に悪い。常日頃、母とは若干言葉は交すが、父とは殆んど話し合いがない。

話し合った所で、自分の考えや悩み事を理解してくれないであろう。と思ひ込んで居た。親の心子知らず、子の心親知らず。

我が子を思わぬ親は全くないといつても間違いはあるまい。問題は性格と態度と表現にあるので心は通じ合っているものでなければならぬ。

○学校のクラスの問題に対しては、余りにも弱気で悲観的であつて、断固として断るの決意を持たないし、その問題から逃げようとする態度は男らしくない。ボーイスカウトは、少年の先駆者であるはずである。暴力は絶対に否定するが、善行に対しては勇気を持って進むべきである。

人に対して迷惑はかけない、心配かけない。そして人の為に尽す事を考えなければならぬ。

為に尽す事を考えなければならぬ。そこで、クラス全体の問題として考え

クラスの中には必ず同意同調する者が必ず居るはずである。

力を合せて、クラスの改善について先頭に立って見ろ、それがよいスカウトだ。

○未成年の少年が一人で来て、簡単に就職出来るような甘い世の中に現在は仕組みが出来てはいない。

もし、それが容易に出来る職場があつたとすれば、それは必ず転落に通ずるものである事に間違いないのである。堅気で安定した職場であるとしたら必ず、身分証明を必要とするし、又身元保証人を必要とするのである。

君と僕とは初対面ではあるが、ボーイスカウトの同志であるという事で、君が両親の了解のもとに就職先を求めらるのであるならば、敢えて身元保証人になってやる事も辞さないが、今の段階では保証してやる事は出来ない。

○優しくいたわってやる事も愛情ではあるが、事と次第によっては、厳しく開放してやるのも又愛情である。今の彼の年齢は、情緒が不安定の時代であつて、深く考えもしないで、突然に思いついた事に猛進する可能性を持っている。

若い人の特権である「若さ」は現代の若い人達の若さの善用に対して、私達は深く理解と接近と談合をしなくてはならない。

○折角入った高校を一年間休学する予定だと君は言っているが、その手続きは誰が一体するのか、それは当然父親の手をわずらわせなければならぬ。又当然許可されるべき理由がなくては簡単に許可されるものではない。

○たった一人の父親、たった一人の母親との本当の話し合いが出来ない訳はない。もしそれが難しい事であるならば事情のよく理解出来る第三者に入って

もらうことだ。
もしそのような人がなくて、私で役に立つ可能性があるならば、いつでもその第三者になってやるよ。
一生懸命に話しをしている私の顔を見つめながら彼は真面目に聞いていた。そして一生懸命に考えていた。顔付きも明るくなって来た。
「僕一度家に帰って、両親とじっくり話し合ってみます。そして、しっかりした方針を、もう一度根本から立て直して見ます」
「僕の家へ電話をかけさせて下さい」
「ああいいよ、掛けなさい。だけど家出したなんて言うなよ。世界ジャンボリーで知り合った〇〇さんに相談したい事があるって来たと言うんだよ」
彼は自宅に電話をかけた。電話口に出た母親に、素直な声で、「母さん、心配かけてご免ね、今から帰るよ。悩み事があったので、朝霧の世界ジャンボリーの時お世話になった静岡県〇〇さんに相談に来たのだが、いろいろの問題は皆解決したから……」
「私も電話で父親とも母親とも話し合った。
本人と固い約束をしました。迎えに来なくてもよろしいです。私が責任を持

って送り帰します。よい息子さんです。もっと息子さんを信頼してやって下さい。
送り出したら直ぐに此方から連絡します……」
私と彼は〇〇〇家の皆さんに厚くお礼を申し上げて駅に向った。
彼の所持金は千円余り、私は新幹線の新〇〇までの乗車券と特急券を買って与えた。
「僕アルバイトをして、必ずお返しします。お言葉とご恩は忘れません」
「いいよ、君が学校を卒業して、大人になって、社会人になって、自分の力で得た金で返してくれよ。アッサリ返されたら、折角の信頼も友情も忘れられてしまうじゃないか。
何か困った事があったら何でも言ってよこせ。元気で頑張れよ……」
「一度、僕の団の仲間に逢って下さい。僕は漸くボーイスカウトの本当の意味がわかったような気がします。是非一度、僕の団に来て下さい」
14時12分発新〇〇行の列車の三号車の中から三指の敬礼をする彼の目に涙らしい筋が二本見えた。
私は直ちに帰宅して、彼の家に電話して発車時刻、到着時刻と列車番号を知ら

せて上げた。
母親はとても喜んで、すぐに迎えに参りますと言った。私は決して叱らないで、彼の言う事をよく聞いて、直ちに反発しな……談に乗ってやって下さい。よい少年ですね。と言った。
六時半、今無事に帰りましたと報告があった。私は彼を信頼した。彼はその信頼に応えた。
ボーイスカウトとはよいものだ。信頼する事、信頼されることはよい事だ。私は〇〇〇さんに、その旨を報告した。「よかったですね、おかげで一人の少年が救われたのです」と喜んでくれた。
以上の貴重な体験を通じて私は、家庭も、ボーイスカウトも、形式だけであってはならない。何よりも大切なものは、心と心のつながりであり、相互に信頼し合う事だということを感じさせられた。
初めてあった私と少年、二～三時間の話し合いで理解し合い、信頼し合い、その後もよく連絡を取り合い、そして今は少年は勇気を持って堂々と通学して居る家庭の中の空気も一新したそうだ。
我等スカウトの指導者たるもの、真剣に考えるべきものだと思う。
(県コミッショナー)

『Albatross (アホウドリ) の話』

この話は、ボーイスカウト世界事務局 (スイス・ジュネーブ) で発行している季刊誌「ワールド・スカウト」Vol. 8、No. 2、1972の中より訳したものです。訳したのは、浜松4団シニアスカウト小野浩孝君 (高校2年) です。

古くなった灯台船は、すぐにスクラップにされてしまい、それがその船の最後になります。
しかし、「The Albatross」(絶滅の危機にさらされているアホウドリの名をつけた船)号は、1970年の夏に行なわれた船舶の入札で、幸福にもそれを手に入れたアイルランドボーイスカウト連盟によって、新たな寿命を与えられました。
ダブリンの港湾当局は、早速停泊の施設を与え、又ある船舶業者は、防水壁にあいていた穴をなくし、不必要な装備を取りさる援助をしました。スカウト達は、班を単位として、鉄錆を落したり、新しく色を塗ったり、床を張

りかえたりする仕事を始めました。アイルランド海軍は彼等の努力に対してハンモックや、ガス調理器具や暖房の設備をプレゼントしました。ディーゼル発電機が購入され、船内配線も一新され、電気設備はすべてスカウトの手によって完成されました。1971年の7月に「Albatross」号はダブリン市から湾をへだてて5マイルの所にある、Dan Laoghaireハーバーにつながれました。
さらに海洋活動の装備として22フィートセーリングポート (ケッチタイプ)のモーター付帆船) 3隻のMinor級セーリングデインギー、9隻のカヌー、3人でこぐデインギー、24人のスカウトと6人の指導者が宿まる事の出来る宿泊施設も用意されました。
「Albatross」号は月日がたつにつれスカウトの大きな企画や活動をする場所として深いつながりを持つ様になりました。そこはスカウトの墓地の中でも、もっとも素晴らしいもののひとつ

です。なぜならば水でかこまれ海のスカウト活動が出来るからです。したがって仲間もめざましくふえました。
しかし、それは少年達が深く求めているものに本当に該当した活動や訓練が海のスカウト活動の中に準備されているからです。今では海のスカウト活動は、アイルランド・ボーイスカウト連盟にとって、もっとも重要な部門となっております。
1972年は、さまざまなコースをねらうスカウト、シースカウト、ベンチャースカウト (日本のシニア) やリーダーが利用申し込みをしたので制限しなければならぬほどであった。
なお、さまざまなスカウトの為にアクアコースや水泳プール、実修用コースには電気や無線の基礎コースが用意された。J・O・T・A (ジャンボリー・オン・ジ・エアー) には2台の無線機が活躍した。
以上

班長訓練野営

浜松第12団 木村 哲夫

3月22日から四日間の班長訓練野営をふり返って僕がそこから得たことを二つ述べて見よう。それは、班をまとめる方法である。
班長は、班員一人一人を認めてやると言うこと。班員の技能を考えてやり、そ

れに応じて、役を得るのである。
そうすれば、自分の仕事に対する責任も持てるし、仕事も能率的である。
自分も班のために仕事をしている。そう思うようになったら素晴らしいと思う。仕事に対する責任がそうさせると思っている。
第二に集合を早くし、規律正しい気を付けや、休め、をする事である。
野営をする場合、気がゆるんでは、仕事もはかどらず、安全ともいえない。気のゆるみは、気をつけなどの小さな行

動に表われるとよく言う。
そのためにも、行動するにおいての規律さと、敏捷さを見るのである。
・僕が得たものは、他にもあったが、48年度の班長となろうとしている今、これ考えた。
単班は、何をやるにも早く正確で、集合の時も二番とは、おちなかった。
それは、自分自分が責任を持ち、規律正しくし、もう一つ付け加えるなら、従う心を持って進んで行きたいと思う。
小粥克己、山本勝也君の記事は次号

浜松まつり 凧揚会場 駐車場に奉仕

野営行事委員長 竹村 徳一

5月5日 晴

今日一日、なんと車の多かつた事か。

駐車場へ入る事が出来ず、素通りする事もたいへんな数に上った。

戦すんで日は西に。どの顔も日焼けで赤らんでいる。さしも賑わった会場も、次第に元の静けさをとりもどしてきた。撤営が終わったら、何んだか体の力が急に抜けたような気がした。

百数十名の方々に、2日間に亘りご奉仕を戴きまして本当に有難うございました。何のトラブルも無く、無事に駐車場整理を終る事が出来ました事を、厚くお礼申し上げます。

5月5日 夜 独りごと

第2駐車場から東へ抜ける道があれば混雑も少しは緩和されるのになア……。



5月2日 雨

朝からの雨が昼になってもいっこうにやむ気配はない。明日から始まる浜松まつりに備えて、資材の積み込みをしなければならぬ。約束の4時は迫って来る。

とにかく積んでおかなければならぬ。

市役所裏へ車を走らせた。多ぜいの人が手伝いに来てくれた。「ありがとう」「ごろうさま」本当に嬉しかった。青少年の家でテントを積終る頃には、西の空は茜く染まっていた。

5月3日 晴 風強し

真っ白い手袋で、スカウトもスカウターもそれぞれ受持ちの場所へ散って行った。風が強い。テントは今にも倒れそうである。凧はよく揚がるが、ノンビリと見ている暇はない。続々と集って来る車をテキパキと捌いている。実に手馴れたものだ。昨年と比べて駐車場の車の流れは良い様に思う。バスを専用の出口から出しているためかも知れない。

通路のぬかるみには困った。もう少し土を入れる必要があるのではないかと思う。

5月4日 雨

凧上げ中止。



班長訓練野営 を終えて

浜松12団 篠崎 昌則

3月22日、僕はこんどの野営で何を帰ってこようかとバスの中で考えた。いろいろ学びたいことはだが、先ず第一に、よい班長とは？ということである。これは先ず班員に好かれる班長であるということがわかったが、好かれる班長になるにはどうしたらよいだろうかということが疑問になった。

それは班員を差別してはいけないということがわかった。

第二に、良い班にするには、これは先ず皆んな協力して能率的にやれば良い班が生れるという事がわかった。が、はたして班員が協力してくれるかということがうかんた。

班員が協力してくれるには先ず第一に話し合いが大切だと思ふ。

第三には、ボーイスカウトで大切なことはなんだろうということである。それは、班の事とパトローリングということがわかった。

それから僕達単班は歩測が全然駄目だったので又一からやりなおしたいと思った。それから単班が優秀班になったことは大変嬉しい事でした。

それから僕が一番反省しなくてはなら

ないことは、スカウトのおきてを忘れかけていたということがわかったので、これからは気をつけて忘れないようにして行こうと思いました。

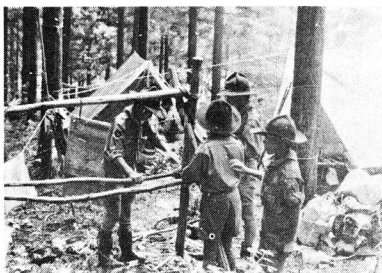
良かったことは、6団の人とも仲よくなったということと、いろいろ勉強したことを今度の野営で生かすことが出来たということです。

これからは、今迄ならった事と、今度の野営でならったことを生かして、どこにも負けないよい班を作って行きたいと思った。

班長訓練野営 に参加して

浜松12団 望月 義朗

僕がスカウト活動に参加してから、もう五年になる。小学校三年から五年までカブスカウト、六年生でボーイスカウトそして、今中学一年をおえ、二年にイコ



ール、パトローリングの幹部になろうとしている。また、そのために渋川、川宇連に来ているのだ。

実をいうと、このまゝ、班長になって良いものかという不安があった。階級は二級でも、実力と比例しているかどうか自信がなかったからだ。

しかし、訓練してみて、来た時と帰る時とでは、実力と精神的面で随分進歩したと思う。だからこの訓練野営は、実力を身につける事はもとより精神的にも進歩していく。竹のふしの様なものだと思う。

その証拠に、開所時と閉所時での、気をつけ、休めの姿勢、緊張度のはるかな違いや、スカウト手帳のサインなどがある。そして、今までと違って自分自身欲が出てきた。

訓練での成果はさておき、今書きつづいた様にすべてがスムーズに行ったわけではない。考えさせられる問題がたくさんあった。

最も重大なのは、第三泊目の西久留女木小学校での自由討論だ。

「ボーイスカウトとは何だ」「どんなものだ」と一般の人に聞かれたとしよう。僕たちスカウトはその時どう答えるか、正確に答えられる人は少ないだろう。

ボーイスカウトとは何か、つまり根本を知らなければ、制服も階級も技能章も

すべて幻と化してしまうのではないか。こんな偉そうな事を言う僕だって、ボーイスカウトには、他の団体とは違う班制度と進捗制度がある、というような漠然とした言い方しかできない。だから、この事を考えながら、訓練してきたというプライドを持って、良い班長に又良い班を作りたいと思う。

地区スキー 行事の報告



地区委員長 内田 時世

1月13日④より15日⑤に至る連休を初めての地区行事として全団に呼びかけ夫々の団毎に実施したスキー行事も有ったが浜松1、4、16、19、細江1の団員163名が参加し白樺高原スキー場に於て地区スキー行事を実施した。中部山岳は暖冬にもかかわらず上々の雪である。4日のバスは予定通り13日午後2時浜松を出発し美しい富士を眺めながら順調に身延街道を経て夜9時半頃、宿舎高原ホテルに着く。14日朝、天候晴、周囲の雪景色も美しく、北アルプス穂高、槍も良く見えてすばらしい第一日である。

朝礼後別項別4の要項により10班に編成して訓練に入り予定通り開始する。一同夫々の指導員の教示に元気に楽しく真剣にとりくむ。第一日は無事終了。日没と共に高さ1200米の高原の冷気が身にしみる。

2日目の15日(成人式の日)朝礼後、昨日に続き班訓練と各班より選出された。又自発的に申込んだ33名のスキー章検定テストを実施する。

結果は別表の通りで16名がテストに合格した。15日は朝より曇っていた高原は昼頃より雪になり、下山は雪路の交通渋滞により2時間程予定よりおそくなったが全員無事帰浜。行事を終了した。いつもながらリーダー、スキー指導員のお世話下さった方々に感謝をささげたい。参加したスカウトも夫々の思い出を胸中にいだき帰宅されたことと思う。

- (別項) (班別の要領)
- A班 指導員について正式なる指導を受けた人
 - B班 滑った経験はあるが指導は受けていない人
 - C班 今回初めてスキーを行う人
 - A班指導員 松本、増田
 - B 〃 松田、稲垣、平賀
 - C 〃 内田、影山、新員、岩切、中村
- (スキーテスト結果)

直滑行停止とブルークボーゲンの2種目を夫々100点満点で3人の審査員の平均点70点以上を合格とした。テスト中転倒とか、指定コースよりはずれた場合は2〜5点の減点をする。

安定した、安全性のあるスキー技術をする事を主眼として指導しているのです。その点も考慮して採点した。僅少の差で合格を逸した人もあります。

所属団	氏名	直滑行停止	制度回転	判定
浜松1	河合 征彦	77.5	81.6	合格
〃	竹田 守	74.3	80.0	合格
〃	山崎 均	73.0	77.3	合格
〃	長野 正弘	79.0	82.0	合格
〃	糟谷 雅紀	76.0	82.3	合格
〃	三谷 皓志	70.3	77.0	合格
〃	鈴木 直弥	71.6	70.6	合格
〃	河原崎久登	73.6	72.6	合格
〃	尾高 秋宏	64.3	64.3	
〃	山梨 邦夫	69.0	61.6	
〃	鈴木 孝昌	66.0	61.6	
〃	齋 藤 茂	65.6	—	
〃	吉沢 正幸	69.3	69.5	
〃	伊奈 康晴	69.6	61.6	
浜松19	袴田 祐治	76.3	82.0	合格
〃	鈴木 徹	69.3	69.3	
〃	小幡 省一	70.6	71.6	合格
〃	久保 博三	70.8	68.0	
〃	沢 根 聡	72.5	72.0	合格
〃	影山 訓久	70.6	67.6	
〃	中村 康一	73.0	81.0	合格
〃	中野 哲孝	70.0	72.5	合格
〃	八木本英三	70.0	70.0	合格
〃	渥美 貴久	70.1	68.1	
浜松4	宮崎 史雄	70.5	68.0	
〃	森下 研	73.3	70.0	合格
浜松16	新谷 啓造	75.6	70.1	合格
〃	村田	69.6	69.0	
細江1	野末 正彦	70.5	67.3	
〃	石田 祐啓	69.0	67.0	
〃	岡 和 弘	69.5	67.0	
〃	中村 善彦	68.0	—	

原稿募集

スカウト浜松第52号原稿募集します。

◎スカウトに関する記事
何んでも結構

◎原稿メ切り 7月10日

◎発行予定 8月上旬

うごき

- 1月1日 日出還拝式、中田島砂丘、千余名参加
- 9日 オーストラリア大会帰国(野島(4)竹田(12)赤堀(18))
- 11日 シニアスキー訓練打合 法林寺
- 13~15日 地区シニアスキー訓練白馬(ひるがの)スキー場
- 13~15日 地区ボーイスカウト・スキー訓練(長野)
- 18日 6団新年会 東田町公民館(三輪・平野出席)
- 20~21日 地区リーダー研修旅行(京都、奈良) 1泊2日
- 20日 事務長会議 静岡(牧野)
- 25日 地区内コミ関係者会議 B-P祭について 法林寺
- 27日 12団新年会 栄やつ古
- 28日 班長訓練野営準備会 法林寺
- 29日 地区野営行事委員会 法林寺(B-P祭 班長訓練野営等)
- 2月2日 地区委員会 法林寺(B-P祭等)
- 3日 地区コミ会議 県民会館(三輪)
- 4日 地区ソフトボール大会決勝戦優賞 18団ボーイ隊(和地山公園) 2位15団ボーイ隊 3位 19団、浜北1団、三ヶ日1団、各ボーイ隊
- 5日 登録事務打合会 法林寺
- 5日 B-P祭準備会 法林寺
- 7日 観音山下見(内田他)
- 8日 全体リーダー研修会 法林寺(プログラムの立て方及びハイキング等)
- 10日 B-P祭会場校打合 西部中学校(竹村、三輪)
- 10~11日 県トレーニング研修会 静岡県

- 青少年センター(三輪、井ノ口、平野外山、後藤、宮沢、柴田)
- 15日 中央ブロックリーダー会 法林寺
- 15日 カブ講習会(三ヶ日)本部員打合会 法林寺
- 16日 L-P祭 西部中学校体育館 1,500余名参加
- 20日 地区シニアリーダー会
- 22~23日 カブ講習会(三ヶ日高校生対象)(宮沢、杉山、後藤、外山、森本光治、伊藤喜平)他奉仕
- 24日 渋川、川宇連野営場下見 森林組合打合(竹村、井ノ口、名倉、渡辺、高須三輪)
- 26日 地区財政委員会 法林寺
- 28日 地区班長訓練野営打合 法林寺
- 3月1日 72期カブ講習会打合 水産会館(地区コミ他)
- 3日 地区コミ会議 県民会館(三輪)
- 7日 地区内コミ関係者会議 法林寺
- 8日 ボーイリーダー会 法林寺(班長訓練野営等)
- 9日 72期カブ講習会本部員打合 新居水産会館
- 10日 県、指、麓、委員会(山中、中島)
- 11日 班長訓練野営本部員打合 法林寺
- 12日 地区委員会 法林寺 班長訓練野営等)
- 13日 班長訓練野営準備 法林寺
- 14日 野営行事委員会 法林寺
- 15日 中央ブロックリーダー会(イザカヤ)
- 17日 事務長会議 県民会館(牧野)
- 17~18日 72期カブ講習会 新居水産会館(三輪、外山、柴田、西野、井ノ口智)
- 18日 20団シニア結成式 入野小学校
- 18日 班長訓練野営食糧調達(夜)引佐田力食品(竹村、鈴木宗、井ノ口、三輪)

あとがき

○目に青葉山ほととぎす初がつお——、やはり花の春から新緑を迎え、お互いに生きる喜びをしみじみ体験する。想も新たに第51号編輯を迎う。

○この時期の号はどうしても総会に関する記事が主体となる。一見無味乾燥のように思えるかも知れぬが、スカウト運動に関係する人によく御理解願わなければならないので詳細報告する次第である。

○スカウト浜松の編輯もマンネリ化をおそれる。48年の新年度を迎え組織拡張委員会を開催して編輯方針を討議したいと思う。今回は日数的に余裕もなかったため少数の人たちによる編輯とした。

○本年は地区総立20周年に当るので53号を目標に特号号としてみたい。

○地区の本拠とも云うべき法林寺の書院客殿等の御新築を祝い益々栄えらんことを。

(T・S生)

発行所 第51号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和48年6月1日発行